

令和3年度 第7回市民まちづくり会議 次第

日 時 令和3年12月20日(月)
午後6時30分～午後8時00分
場 所 市役所本館2階 全員協議会室

1 開 会

2 報告事項

3 委員長の職務について

<参考>別紙「東御市市民まちづくり会議規約」(第6条、第7条)

4 市民まちづくり会議の活動に関する委員アンケート結果について

(1) アンケート共有【別紙1】

- ・11/4開催 千葉大学 齋藤教授の講演会について
- ・市民まちづくり会議の活動について

(2) 結果について対話と発表(グループ)

5 会議事項

(1) 今後の市民まちづくり会議の進め方について【別紙2(参考)】

- ・会議におけるルールづくり
- ・開催日の定例化について
- ・会議の終了時間の徹底について

6 その他

ワークショップのご案内【別紙3】

7 閉会

市民まちづくり会議名簿

	氏名	ふりがな
副委員長	坂口 永一	さかぐち えいいち
副委員長	花岡 裕子	はなおか ゆうこ
	有賀 剛	あるが つよし
	五十嵐 豊峰	いがらし とよみね
	大谷 真宙	おおたに まちゅう
	荻原 猛	おぎわら たけし
	小夫 真	おぶ まこと
	倉嶋 智彦	くらしま ともひこ
	篠原 博文	しのはら ひろふみ
	島田 直政	しまだ なおまさ
	鈴木 絵美	すずき えみ
	竹内 直弘	たけうち なおひろ
	田中 隆	たなか たかし
	柘植 香織	つげ かおり
	中澤 亥三	なかざわ いぞう
	水間 源	みずま はじめ
	村山 弘子	むらやま ひろこ
	柳橋 悠香	やなぎばし ゆか

○東御市市民まちづくり会議規約

令和3年7月26日

(名称)

第1条 この会は、東御市市民まちづくり会議（以下「まちづくり会議」という。）と称する。

(目的)

第2条 まちづくり会議は、市民の参画と協働による「市民が幸せと豊かさを実感できるまちづくり」を推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための事業を提案し実践することを目的に設置する。

(運営の原則)

第3条 まちづくり会議は、市民の自己決定、自己責任の原則に基づき、官民協働のシステムとして、市民が自主的に運営するものとする。

(活動内容)

第4条 まちづくり会議の活動は、次に掲げる事項とする。

- (1) まちづくりを推進するための調査、研究
- (2) まちづくりに関する事業の提言、検証及び実践
- (3) その他まちづくりに必要な事項

(組織)

第5条 まちづくり会議は、まちづくり会議の委員（以下「委員」という。）で組織する。

- 2 委員は公募による市民及びこれに準ずる者をもって充てる。
- 3 前項の委員が入会又は脱会を希望する際は、事務局へ届け出るものとする。
- 4 委員の任期は2年とする。ただし、年度の途中で委員に就任した場合は、就任した日から翌事業年度の末日までとする。
- 5 委員の再任は妨げない。

(委員長及び副委員長)

第6条 まちづくり会議には委員長1名、副委員長2名を置くこととし、それぞれ委員の互選により選出する。

(委員長及び副委員長の職務)

第7条 委員長は、会務を統括し、まちづくり会議を代表する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第8条 まちづくり会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(部会)

第9条 まちづくり会議は、必要に応じて部会を置くことができる。

2 部会の運営、その他必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

(事務局)

第10条 まちづくり会議は、事務局を東御市役所企画振興課内に置く。

(公開)

第11条 まちづくり会議及びその部会は原則公開とする。

(個人情報等の保護)

第12条 委員は、まちづくり会議の活動を通じて知り得た個人情報等の保護に努めなければならない。

(事業年度)

第13条 まちづくり会議の事業年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(補則)

第14条 この規約に定めるもののほか、まちづくり会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、令和3年7月26日から施行する。

① 参考になった点について聞かせてください。
委員からの意見
環境点検を実施することは、委員全体で共通体験をすることでバックボーンが異なる委員の集まりである当会をいくつかの方向性を見出すことにつながり、委員相互の理解も深まるということ。
まちづくり、まち起こし、シティープロモーションなど(小規模)事例としては大変参考になりました。
実践された具体例を話していただき大変参考になった。特に地域外の若者やいろいろな知識のある専門家の目で地域を見直すことにより地域の魅力を発掘し、地域の活性化につながる事業を行うことは、私もその通りだと思った。 地域が魅力的になれば、移住者も含め来訪者も増え、二次的に地域が住みやすくなると思う。「まちづくり」はそのための活動を行うべきだと思う。 永くその地域に住んでいる者は地域の魅力が当たり前になり、現在の生活がより快適になることに目が行きがちで、社会福祉設備の拡充を求めることが多いと思う。地域外から見ても魅力的な地域を作るためには、齋藤教授のような「まちづくりの専門家」による助言・協力は不可欠だと思った。
他所のことを過程も含めて知ることができ、まちづくりの雰囲気やイメージが掴めた気がする。
まちづくりのキーポイントを沢山お話しいただいたので、今後の検討基準として役立てることができます。
・先生の話された「住民が主体となり、自主的・自律的に行う活動」で、『取り組む意思が重要』というポイントが大切だと感じました。 ・長いスパンでの経済や人口を増やすことが「地域の魅力を向上させる」、そして雇用の場を生み出す点ということを基準に取り組まないといけないと思います。 また、住民の総意をどういう形で形成するかもポイントだと感じました。「一部の方の参加だが、参加しない住民の利益」という考え方をどう具体化するか、意見を取り入れるかが難しく感じています。
記憶に残ったのは お祭り広場 を作った事例。
・まちづくりとは何かという大切なポイントや言葉の定義が明確に記載されていて、方向性が理解できました ・他の地域の事例がうかがえたこと ・環境点検の進め方の概要が知れたこと ・やりたいことありきではなく、ゴールありきで進めたほうが良いこと ・価値観の違いがある時は共通認識をもつこと体験することが大事であること
1. 「まちづくりとは」と、何をするかを箇条書きにし、関係者の理解が一致するようにしていることが、良いと思った。 2. まちづくりとは、町育てという考え方が新鮮であった。 3. まちづくりは、住民の意思が最も重要という点になるほどと思った。 4. 実施例として、君津市の例が挙げられたが、手順や効果が理解しやすく参考になると思われた。
外からみた地域を客観的に分析、まとめられる取り組み。
地域の再発見、その地域の活性化が主眼のようでした。 以下箇条書きとします。 1. 大学ゼミ(課題)を学生がグループで調査し、検討し、地域で埋もれている物を発見し、地域に文化的な付加価値をもたせる。これは「まちづくり会議」としても参考になる。 2. 対象地域の住民との関わり、「ふるさと創成」と同様と思え、その地域住民にその地域の文化的側面などを認識させ地域住民の地域おこしの気運を高める。(将来的には地域住民主体)
② 今後、伺いたいことなどはありますか。
委員からの意見
今後、千葉大学の学生さんの意見やアイデア・行動支援も欲しいです。
齋藤教授には担当する研究室のゼミ合宿を東御市で開催してほしい。私も含め地域の魅力を知る者が案内をするので、東御市の魅力を知っていただき、ともに「東御市のまちづくり」についての意見交換を行いたい。
自分たちの目的意識を持った中で随時助言をいただければ有益だと思います。
1. 東御市の人口構成や地理的特徴から、どのようなまちづくりが可能かを伺いたいと思った。 2. 東御市の場合は、大学等がないので、活動の人材の確保特に若い人の確保に 難しさがあると思われるので、どのような対応をするのが良いかの助言が欲しいと思った。 3. 地方の都市は過疎化が進んでゆくとと思われるし、また少子化・高齢化が進むと思われるので、先進的な地域の取り組みなどを紹介してほしい。
・今現時点では質問したいというよりは、環境点検と一緒に取り組みたい気持ちでいっぱいです ・純粋に環境点検の方法を学びながら、東御市の課題解決に携わっていきたい。自分で気づいていない課題だったり、アイデアが先生に教わることで「気づく」ことができ、今後の方向性が見えてくる気がしています
聞くよりまずは動く→そこから悩む→それで聞く
・先生の取り組みでは、年単位でのプロジェクト活動を事例として紹介いただいています。環境点検にしても、実際の現場感覚が必要だと思います。地域の環境としての「良い所と課題」の洗い出し作業は、街全体(東御市)でなく地区を区切って始めないと焦点が定まらないと感じます。スタートするまでのポイントをレクチャーして頂きたい。
特になし。 もう少しお会いしてみないと、伺いたいことが出てこない状況です。
率直に、現在のような状況の当会を今後どのように運営していったらよいか。
1. 先生は、地域(決してマクロ的でなくミクロ的)なところから地域の活性化、地域住民の地域への愛着の醸成が基本であるとお話でしたが、東御市については、当まちづくり会議が「まちづくり」「シティープロモーション」の2つに別れたように小さな地域からの取り組みも否定するものではありませんが、今、東御市にある農業、産業等をいかにプロモートするかということに東御市民が日々の生活でいかに幸福感をもって生活するかという「まちづくり」が肝要だと思います。 2. 先生に伺いたいことは先生がおやりになった「地域活動」をその行政がいかに反映させたかということです。

③ その他、自由なご意見を聞かせてください。

委員からの意見

1. その事例をどう展開するか、どう行動するかが不明
2. 手順としてすぐに「環境調査」が良いものか不明(委員、今のレベル・認識で)

「まちづくり会議」

同会議は、市民(住民)側の意思を行政側が少しでも聴取りして今後の市の活動に生かすことである。

(例)ある流通業(スーパーマーケット)の例

東京都内のあるスーパーは、クレーマーのご婦人をあえて店に来ていただき、クレームを聞いた。これはスーパーの不備を是正する手段とした。

今後の「まちづくり会議」は、住民側委員は年齢、住居地区等、まちまちでありその意見は行政側(住民に支持される)ものならプラス材料であろう。委員は日々の生活で感じたことを当会議でおおいに言うべきであり、行政側はこれをモニタリングすればよい。

地域のイトコ掘り起こしは 活性化委員会から学校単位の地域作りに受け継がれている。またfbで 東御市オンラインツアー ぼかぼか東御… 東御市を愛する会 が立ち上げられ それらの目的に合った内容充実 深堀情報に磨きをかければ良いと思います。

今回の講演で外部からの目で地域を見直すことの重要性を痛感しました。特に高齢化の進む地方都市においては、若者による活動が重要だと思いました。東御市には大学も無いことから、いかに若者を地域に根付かせるかということを中心に地域活性計画を立ててもいいと思います。

齋藤教授に協力してもらい、学生の手でこの地域を見直してもらえれば、面白い地域活性事業を起こせると思います。具体的には初めに東御市の地域の魅力を学生と一緒に時間をかけて視察をして、その後みんなでディスカッションして行動目標を定めれば良いと思います。

なお、以前にもメールでお伝えしましたが、社会福祉に該当する案件は齋藤教授とともに行う地域活性事業とは別にすべきと思います。

講演いただきありがとうございました。市民まちづくり会合だけでなく、ぜひ一緒にさせていただき、勉強をさせていただきたいと感じております。

1. とりあえず、何か行動してみるのが良いと思います。

果たして齋藤先生が伴走型でこの会議に携わっていただけるか、当日のお話だと向こうでも、東御市の特長を捉えておらず、ご意志も固くはなかったようなので、少し不安に感じます。

専門性もどちらかというと建設系というハードウェアを作ることを専門にされているため、正直なところ、第三者の市民同士を結びつけサポートされていくスキルはお持ちではないかなと考えています。

一方で、冷静に地域を見ていただけそうです。

東御市の変化を定点観測していただき、分析結果を科学してくださること期待いたします。

伴走型としては高崎経済大学の地域政策学部の先生を

お招きした方が距離としても近く、より専門性もあり効果的と考えます。

外部の人を呼ぶのではなく自分たちで市民がやってみることが大切

教授や学生を呼ぶことが流行っているがあくまでも他人事や机上の空論になるので何なので市民がやってみることを大切に

現時点では、先生をリーダーにして事業を進めるのは尚早だと思います。

2 市民まちづくり会議の活動について

【別紙1】

① 今までの取組みに対してご意見を聞かせてください。(意見発表、グループ分け等について)

委員からの意見

当初の計画通り、個人の意見発表を継続していたことについては特別なないですが、当会のスタート当初の意見発表は、厳格に時間を決められており、スムーズな会の進行がなされていたような記憶がある。グループ分けについては、委員全員の理解が得られるような形では無かったかもしれないが2グループに分けることができ、少しずつ前に進めることができる期待も持っていた。2グループに分かれ、次の会議の内容検討の部分についての審議に対しての慎重さが欠けてしまったように感じている。

- ・この言葉が気に入らないということで進まない会議、納得いかない進まない会議、誰かが何か提案すると否定から入る会議(斎藤先生の提案時など)、人の話を聞かないで自分の意見だけを述べる会議、メンバーが何をしたいのかわからないです
- ・ここまで意見がまとまらなかったり、評論家のように否定している状況であれば、一旦会議を解散したほうがいいのかと感じています
- ・議論をしたくないわけではないですが、「健全な」議論がしたい
- ・どこかの政治のような、事前にすり合わせしておくような、既定路線な情報共有をするための会合をしたいわけではない
- ・メンバー各自の自分のやりたいことを一旦脇において、東御市にとっての問題点を解決することに目を向けていきたい

1. 多種多様な世代(年代)が集まり自由意見交換は大変良いと思います。しかしながら、65歳以上(シニア層・年金暮らし層?)の意見・要望と子育て中の世代(30代)や仕事中心の世代(40代)、また仕事完結と退職準備世代(50代)とでは関心事やこうしたい(こうなったら良い)が大きく違う? また、地域や区(地域づくりの会・里づくり協議会)などでも歴史・文化など価値観が異なるところから、個別最適でなく全体最適へ委員の意見や要望を集約する必要があります。

2. 他の委員の意見を広く聞く、理解する努力
KT手法(ケブラー・トリゴ)「広く意見を出し合う手法」
「三せず」の実践=①説明せず(S) ②批判せず(H) ③議論せず(G)

3. KT手法での思考プロセス
KT法は、思考、反応、行動のパターンは、次の4つの質問に分類できる
① 何が起きていて何をすべきか?
② なぜ起きたのか?
③ どのように対応すべきか?
④ 何が起きそうか? これら4つの思考は人間の普遍的特性

KT手法は、文化や環境、適用分野に依存しない誰でも共通に持つ普遍的な思考を扱うため、対象となるコンテンツ(内容)によらずどのような実務へも適用できる。体系化された合理的思考プロセスは「思考のTQC」実務環境への定着には、意識的な継続利用、重要関心事への積極的な適用などを地道に行う必要がある。

KT手法は、以下の4つのプロセスからなる。

① プロセス ②目的 ③質問 ④状況把握(SA)

現状把握と課題抽出 何が起きていて何をすべきか?

問題分析(PA) : 問題の明確化と原因究明 なぜ起きたのか?

決定分析(DA) : 目標設定と最適案決定 どのように対応すべきか?

潜在的な問題分析(PPA) : リスク想定と対策計画 何が起きそうか?

委員それぞれの思いを発表させてもらったことは良かったと思う。当然、人により提案内容は様々で、今後はその提案をいかにまちづくりに活用していくのが問題となる。
今後は提案内容を精査し、具体性のあるものについては実施計画を作成したり、市の担当部局への紹介を行う。漠然とした提案内容でも検討すべきものについては具体的に委員内で再度検討すべきと思う。
一番の問題は、だれが提案内容の優劣を判断するかにある。数人の委員で行えることにも限界があるので、1つか2つに絞らざるを得ないと思う。
そこで、前回講演していただいた齋藤教授グループにスーパーバイザーになってもらい、学生と一緒に提案内容や東御市の魅力を知ってもらい、再度具体的な計画を立てる方がいいと思います。

委員各々の持ち寄ったものがわかったし、その上でのグループ分けまで行き、これからまたどうしてこうか考えよう、となったので流れに乗れたと思います。そのため、グループ分けに異議が出たりしたのがとても不思議です。

委員の皆様から、それぞれのまちづくりに関する思いを聞くことができたのは意義がありました。

・現在の「市民まちづくり会議」はそもそものスタートが「各参加者の意見や日頃感じている課題」など、東御市がどう発展できるかをワクワク議論できる場だと感じて応募しました。当然、自分の意見に賛同や異論があることは承知の上ですが、他人の意見への批判などは論外な事だと思っています。行政がかかわっているの、ある程度の方向性や結論は必要とは思いますが参加者はボランティアなので意見の集約よりは、意見発表の場とらえてアイデアが良ければ自主参加を募って提言にまとめていけばよいのではないのでしょうか?

2021.8.25の配布資料に「会議の議題については事前に委員長 副委員長及び事務局とで整合する」とありますが 前回の会議では整合されていない状況で次回の内容が発表されていたので 私個人としては混乱が生じています。

プレゼン方式にてとても良かった。
個々の思いが画面をとうして解釈できることがよいと思う。

1. 意見発表は、5分などと時間を切って、その範囲で発表し、委員全員が話せるようにするのが良いと思います。
また、発表の要旨について、予め箇条書きした資料を配布するなどして討議の効率を上げるのが良いと思います。
2. 意見の発表と討議の後、すべきことを箇条書きにし、誰がするのかを決めるのが良いと思います。
3. グループ分けは、良かったと思います。

良いと感じたところ。
全体: 今までに知らない地域や東御市のことを考えていること人に出会い、お話できたこと。関係性を持ったこと。初期、若手職員の方と会った後、本音で話せて、東御市をよくしたいという同じベクトルを向いていること感じ、一緒にチームということを感じたこと。

発表: 様々な人の考えを聞き、自分が知らない視点での課題把握が学べたこと。

課題と感るところ

全体: 元々まちづくりに動いている人たちと現在の「市民まちづくり会議」のシステムがミスマッチを起こしている。委員の方の多くは自分の意見の陳情、市役所の方では、新しいまちづくりの取り組みという成果を作ろうと躍起になってしまっている。
発表: 制限時間を守らないで発表する委員の方が多くなってしまい、最初期に発表した委員の方の気分を害されてしまった。福祉系の課題では、相互の信頼性構築をする前に、価値観対立が起きてしまい、人間関係が難しくなってしまった。
福祉系の課題については、専門家のレクチャーなどが無いと実際に課題を抱えている人も委員の方もどちらにも不幸になってしまう危険性がある。

<p>まちづくりには私達住民が主体で自主的、自律的に行う活動と聞きホツとしました。 突然に突出した計画より、小さな範囲からでも課題を探し取り組む必要があるか、色々重ねる事が参加者～参加しない住民に支持させる様進めるは、参加してる私、そこに住んでいる家族に対しても共感して貰えるのかなと思います。</p>
<p>ここへ今立ち返っても仕方ないので無回答、まずは前へ少しでも進む</p>
<p>意見発表は、毎回、東御市内で居住しているわけで、より良いベストな東御市を思考し、その会ごとに誰といわず意見を言えばよいと思います。 市(行政)側は一回のまちづくり会議の内容を簡易でよいが市長さんに見せることが意義がありと思います。 グループ分けは委員の意見をまとめ市議会、市役所へその意見をすすめる場合有効だと思います。</p>
<p>② 今後の進め方についてご意見を聞かせてください。</p>
<p>(1) 会議の方向性や進め方、開催時間について</p>
<p>委員からの意見</p>
<p>1. 方向性や進め方に特に問題はないと思いますが、毎回ごとに、何をするかを決めて、皆で承認することが良いと思います。 2. 時間は、現状で良いと思いますが、終了時間を守り、その範囲で結論が出せるようにするのが良いと思います。</p>
<p>現在の会議の人員では、グループ分け等しても十分な活動が望めません。市民各層からの委員を補強した上で、グループごとに目的意識を持って活動すべきではないでしょうか。 規約検討の段階で、まちづくり市民会議という言葉が使われていたので気になりました。現在の会議は市民まちづくり会議の名称が相応しいと思いい訂正を求めたわけですが、今思うのは、今後は市民会議のような大きな組織的な会議に移行していくことも検討したら如何かと思います。</p>
<p>・会議が2年ほど経過する中で、コロナや地域経済状況などの環境変化が起きているのでこれまでの意見発表の集約(単にまとめる)をして、その中から次年度以降に取り組みたいテーマがあれば手上げ式で継続してはいかかでしょうか？ 一度リセットが必要かと思えます。テーマが広範囲すぎて、これまでの経緯からみて自由闊達な意見交換の場とは感じていません。 ・テーマを絞り開催する場合は、基本は月1回平日の夜2時間程度。ただし、活動の関係で土日が必要な場合は参加者合意で進めれば良いと思います。</p>
<p>もっとみんなでフリートークして、何かを実践出来たらいいなと思います。 大きなことも小さな一歩から</p>
<p>1. 委員・正副会長、及び事務局を含むコミュニケーション能力の向上(強化・工夫) 2. 地元、信州大学、長野大学、東御清翔高校など(若い世代)の意見・要望・アイデア・行動支援なども欲しいです。</p>
<p>2チームに分かれて議論をする際 課題一つでも 二つでもがどちらでもいいと思います。それは 事前に委員長 副委員長及び事務局とで整合 されていればかまわないと思ってます。</p>
<p>開催時間ですが、女性の方やお子様もいらっしゃるの夕食時間とダブル時間帯の変更がよろしいかと思われる。</p>
<p>・自分がやりたいことを脇に置き、先生の言うことをまずは素直に聞いてみて、環境点検を実施したらどうか ・委員長や副委員長など、会議を進行する役目であって、存在する意味がわからない ・今回のタイミングで市民まちづくりの会は解散させたほうがいいのか？あれもダメ、これもダメ、自分の意見はどうなったのか？という議論をするための会議ではなく、東御市の問題解決を市民が主導で考えていく会議のはずなので ・東御市の問題解決できる人と一緒に市民まちづくり会議の活動をしたかった ・会合を今のメンバーのまま進めるのであれば、①ゴールの明確化、②会議参加のルール(相手を否定しない、人の意見はまずは受け留める、発言は常にポジティブに、自分の意見を伝えたら聞き手へ発言させる、等々)を決定して参加したい</p>
<p>委員は、そのおかれた状況はバラバラであります。 少しでも多くの委員が参加して意見をいうことが大事であります。 以下箇条書き ①月の第3水曜日18:30からというようにひとつの開催日を決める。仕事をしている人は、「第3水曜」より出るように手配しようと思います。 開催する部屋がなければ職員の方は大変ですが、空いている部屋を使えばよい。 ②土日の午前中午後であってもよい。仕事をしている若い人はありがたいのではないのでしょうか。</p>
<p>東御市市民まちづくり会議に参加して思うことは、会議の目的が「市の課題解決」となっているため、高齢の委員が多いこともあり提案内容の多くが社会福祉関係となり、実施できる主体は行政組織となる。そうすると、まちづくり会議は市への陳情をするだけの場所になってしまう。 市民が協働するなら、会議の目的を市民の情報を活用した「市の魅力発信」による暮らしやすいまちづくりに変更すべきだと思う。 今後は「市の魅力発信」グループを中心に齋藤教授とともにより具体的な活動が行われれば良いと思います。</p>
<p>堂々巡りな感じがしている。</p>
<p>全員の意見を聞いて進めることは難しいと思うので、バランスを見ながら進めていくしかないような気がする。</p>
<p>新しい街づくりの活動を作るための会ではなく、それぞれのリソースを融通しあうプラットフォームの会議に形態を変更できないか。</p> <p>そのためには一度、共有知を作る必要があるが、たまたま大田区でカードゲーム「S D Gs de 地方創生」を使ったプラットフォーム・地域のコミュニケーションの大切さを教育する取り組みをおこなっている団体があり、地域内の各団体がリソースを共有することの大切さ認識できるものになっている。</p> <p>一度こちらを行った上で、委員の方、それぞれにおこなっている街づくりについて情報交換、ノウハウの融通し合い、お手伝いなどのサポートの舞台機能となる「市民まちづくり会議」を作っていけたらと考える。</p>

(2) 会議や市への要望について
委員からの意見
<p>1. 夜間の会議なので、全員が発言できるよう、発言時間をコントロールするなどすればよいと思います。 2. 夜間の会議なので、参加できる人は限定的と思われるので、投書での意見収集などしたらどうかと思います。</p>
<p>今更ですが、市民から様々な意見を聞くことも重要だとは思いますが、ある程度方向性を絞って検討が行われればよかったと思う。社会福祉関係の提案は重要だが、この月1回開催のまちづくり会議で検討するには重すぎて、別に意見を出せる機会を作り市議会でも検討してもらおうようにすべきだと思う。 また、現在この会議の事務局は市が担当しているが、役員は市民である委員のみで構成されているため会議をまとめることができない。委員から出ている提案を市政に反映させるためには、役員に担当課長が就任し行政として方向性を示せるようにすべきだと思う。</p>
<p>・曜日が決まっていないことや、次回会議がいつなのか前々からわからないことは、私の仕事の性質上厳しいことです。できれば次回日程を会議の日にかかるとありがたいです。 ・会議終了時間はなるべく守ってほしい。そのため、意見言いたくなる人は、感情を置いておいてほしい。 ・市役所の皆さん、いつも大変なお気遣いありがとうございます。</p>
<p>・行政として、会議形式や委員会方式だけでなく「公開講座」として、市民に開けた形式でいろんな立場の講師に話していただきまちづくりの参考として多くの住民の意見をくみ上げていただきたい。 ・要望としては、私はひきこもりとか不登校などを『福祉』や『教育』という枠でくらずに“地域社会の民度”として、おせっかいだけこの街に暮らしてよかったねと言ってもらえる社会にしたいと考えています。ある程度専門性が必要とは思いますが、誰もが陥る危険性のある現代社会ですので広く浅く構わないので住民の意識を反映していきたいです。</p>
<p>今までの委員発表の中で 有賀さんの市民霊園の話題が 多数の市民の皆さんから要望のあったこととして提案されていましたが 課題の抽出には理想的な流れだと感じています。市民の皆さんが考えられている あるべき姿が明確にされていて もう少し委員の課題として議題にしたいと思ってました。</p>
<p>私個人としては、現在は空き家対策について協議実践ができればと思っています。 この空き家に関心がある委員の方とグループを共にし、他の機関や市民の皆様とネットワークを築き活動が出来たらと思います。</p>
<p>活動費をつけること 楽しむこと</p>
<p>個々の思いも数多く取り入れながらVE活用し目標の設定、実施、検証、改善と早い実施成果を上げることが大切だと思います。 会議倒れとなりやすい場合をなくすためにも実践活用が良いと思います。 また、グループ分けからひとつずつに絞り共通意識の中目に見える活動をお願いします。</p>
<p>・税金である予算がつくのであれば、一市民として、東御市がよりよくなる施策が1つでもできることを望みます。納税した住民税が意味のない会議に使われていると思うと悲しくなります</p>
<p>子供達って巻き込めないんでしょうか？！ 近くに通う高校生、中学生とかの意見も聞いてみたりとか・・・</p>
<p>①「発表」を大々的にやるのではなく、大々的な発表は委員一人一人一進したところでいったんとめておく。 ②毎回の会議で委員(日々の生活、年齢、居住地が異なるなど)が感じたり思ったことを発表する。(形式的にすることはしない) ③委員は発表(コメンテーター)の専門ではないのでその発表時間を10分と区切ることは意味がない。 ④せっきやくの住民参加の会議であるから市側はモニタリングし「メモ」でもよいから市民にみせてもらいたい。</p>
<p>発言したいのに声の大きい方々の影響を受けて、何も発言できない委員が複数いることを懸念している。 出席率が極端に少ない委員、一度も出席していない委員の意向、現状を知りたい。 委員長が不在となった当会をどのように運営していけばよいか不安。</p>
<p>目的が会議を回すこと、形だけの会議になってほしくない。 ・東御市がより発展していくためにという当初の目的で目標が決まり、活動する会議であってほしい。 ・コロナも落ち着き、一度、委員同士の親睦を深める交流会など開催できないか？ ・月一回の顔合わせでは取り組みの進展ないし、現代の状況変化のスピードにはついていけない。SNSやイベントでのコミュニケーションの活性化、事務局、市役所での中継機能を強化できないか？ ・今後の方向性を打ち出せていない。一旦これまで出てきた委員の発表をまとめて、今後各分野でどう取り組んでいき、サポートしていくか話をしていく必要性がある</p> <p>現在、東御市は地域づくりの先頭を走っている。</p> <p>そのため前例はなく、今回の「市民まちづくり会議」のように良さそうなものであっても、元はこれから始めて市民主導でまちづくりをしようとする、後発向けのプログラムであったりする。</p> <p>何か有益となるプログラムがあったとしても、試行錯誤しながら、とうみバージョンにマイナーチェンジをしていき、ベストフィットを目指すことで、より東御市が発展するものとする。</p>

1. 今後は企画部や地域づくり支援室の部長や課長の同席もお願いし市民認識や好事紹介など共有する。
2. 地域や区(地域づくりの会・里づくり協議会)などのまちづくり、活性の好事例を紹介・理解する。
3. その他情報共有

NHK放映「逆転ゼミ」 2021年12月6日20:00放映
「地域再生」=逆転から学ぶ=関係人口の創出(増大)

お試し版移住・リフレッシュ移住の促進

空き家の利用(リフォームして無料で貸し出す=シェアハウスなど)
若者は都会に行きたい⇒都会へ行く以外の生き方を模索(若者の意識変化)
都会から出て、田舎暮らしで生計(収入は少ないが食住が安い)を立てたい。

「若者の意識変化」

1. 便利性ばかりを求めず人間力(性)を創生したい。
2. 人が多く居ない事、空き家が多い事、それがまた逆に良い。(ゆったり)
3. 都会VS田舎でなく(ほどよく田舎が良い)
4. 若者を大切にしてくれる環境や対応が良い。(ふれあい)
5. ご近所の農家さんが畑を手伝い、教えられる(野菜などタダでもらえる)
6. 人と人との繋がり、あったかさを感じる。(文化・歴史・風土)など

「ふるさと再生プラン」例

1. ペットフレンドリーな街
(ペットと一緒に入れるカフェ・レストラン・宿泊施設・買い物など)
2. 何処でキャンプOKな街
(自然と気軽に触れ合う、ほどよい田舎を体感、移住を考える)

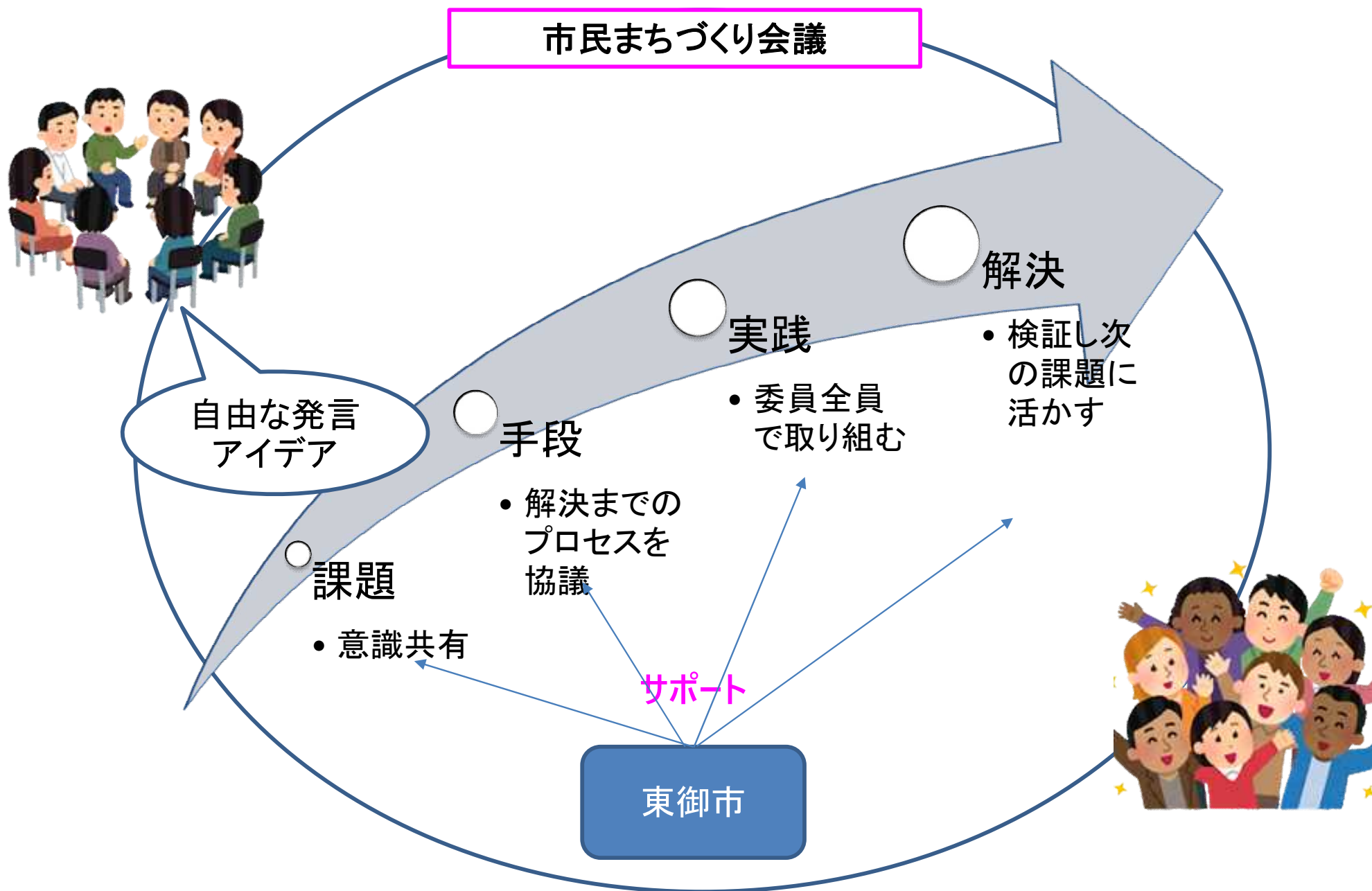
市民まちづくり会議とは

「年齢」や「立場」を越えたコミュニケーションを深めることで、まちづくりに関するあらゆる課題を解決する組織

市民まちづくり会議 3 箇条

- ◆話し合いを通じ人とのつながりを重んじる
- ◆自由な発言を遮ったり批判せずチームワークを乱さない
- ◆互いに協力しながらゴール達成に向け行動する

市民まちづくり会議のイメージ



会議開催実績

【参考】

会議	開催日	発表者	テーマ
令和2年度			
第1回	2020/7/29		—
第2回	2020/10/1		—
第3回	2020/10/29	坂口委員	東御市の魅力発信について
		柘植委員	住みやすい地域づくりについて
第4回	2020/11/26	有賀委員	市民霊園(合葬式墳墓)の設置について
第5回	2021/2/24	小夫委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴を生かした産業の立ち上げについて ・市民が楽しめる地域社会について ・東御市の知名度の向上について
第6回	2021/3/25		—
令和3年度			
第1回	2021/5/27	花岡委員	移住者が増える、特色あるまちについて
第2回	2021/6/30	松澤委員	みなが住みたいと思うまちについて
		中澤委員	老後も安心な都市について
第3回	2021/7/26	田中委員	山岳環境を利用したスポーツツーリズムについて
第4回	2021/8/25	五十嵐委員	子ども・若者への就労支援
		大谷委員	東御市の将来について
第5回	2021/9/29	倉嶋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・湯の丸高地トレーニング施設の展望 ・公共交通の充実
第6回	2021/11/4	千葉大学 齋藤教授講演会	
第7回	2021/12/20		

協働のまちづくりのためのワークショップの開催について

1. ワークショップ開催の目的

市が進める協働によるまちづくりの推進のため、市民目線で市の課題を洗い出し、まちづくりに対する共通理解を得ることを目的にワークショップを開催します。

2. ワークショップの実施内容

- (1) 主 催 東御市
- (2) 日 程 第1回 1月13日(木) 18～20時
第2回 2月3日(木) 18～20時
第3回 2月22日(火) 18～20時30分
- (3) 会 場 市役所本館2階 全員協議会室
- (4) 参集範囲 東御市まちづくり審議会委員
東御市行政改革審議会委員
東御市市民まちづくり会議委員

ワークショップは下表に示すように3回実施いたします。

ワークショップ各回の実施内容

回数	内容	講師
1回目	・市民目線から見える市の課題の洗い出し ・2回目で検討するテーマや課題の決定	特定非営利 活動法人
2回目	・1回目で決定したテーマや課題に対する解決案などの検討	SCOP
3回目	・持続可能なまちづくりを考える	(調整中)

※いずれかの回のみ参加も可能

※詳細は別紙のとおり

ワークショップの詳細

ワークショップの目的

今回のワークショップにより、市民の視点から市が抱える課題を洗い出すとともに、市民と行政が力をあわせ課題解決に向けて何ができるのかを共に考えることを目的とします。

市民と行政が意見交換を共に行うことで、それぞれの役割や協働のまちづくりの仕組みを考えます。

(1) 第1回ワークショップの詳細

第1回のワークショップでは、参加者が考える市の課題を自由に挙げ、その中から第2回で検討するテーマや課題の絞り込みを行います。

①ワークショップに関する進め方の説明

最初にワークショップのやり方やルールに関する説明をします。

②検討したいテーマや課題の洗い出し

ワークショップ形式で参加者の皆さん一人ひとりが今後実践が必要だと考えるテーマや課題を自由に挙げてもらいます。

③第2回で詳細に検討するテーマや課題の決定

洗い出されたテーマや課題について、参加者が実現可能であるか、また重要度によって第2回で検討するテーマや課題の絞り込みを行います。

(2) 第2回ワークショップの詳細

第2回ワークショップでは、第1回で絞り込んだテーマや課題について、具体的に実践していくためには何をしたらいいかを検討し、具体的な実施計画にまとめます。

検討事項	決定事項
目標	テーマや課題解決に取り組んだ結果、実現したい目標
方法	目標を達成するために実施すべき方法
ともに取り組む仲間	実施事項を誰と一生に実践していくか
概ねのスケジュール	実施事項をいつ頃どこまでやれるか

(3) 第3回ワークショップの詳細

将来にわたって安心して暮らせるような、持続可能なまちづくりのためには、SDGsの理念に沿った取り組みが必要です。

また、SDGsは単に行政だけの目標ではなく、市民や地域といった多様な主体が一体となり、自らの問題として捉え、自分にできることはないか考え、行動につなげていくことが重要です。

第3回ワークショップでは持続可能なまちづくりにSDGsの視点も交えて、参加者が共に学び考えます。

①カードゲームを用いたワークショップ

環境省や自治体、学校等で導入事例があるカードゲーム「2030SDGs」を使い、楽しみながら持続可能なまちづくりとSDGsについて学びます。

※カードゲーム（約1.5時間）、振り返り、意見交換（約0.5時間）

※専用のファシリテーターの派遣有り